



岡山大学病院
OKAYAMA UNIVERSITY HOSPITAL
1870

働き方改革に対応する臨床研究支援活動の工夫に関する好事例

岡山大学病院

② リサーチクラーク活用による臨床研究業務のタスクシェア

● 岡山大学の取組み

- ✓ 新医療研究開発センター臨床研究部にリサーチクラークを配置。
- ✓ RCは研究責任医師（PI）が行うべき事務作業を補助するものとして、PIからの依頼を受けて主に審査に必要な文書の記載・整備、事務サポートを行う。医師に伴走し、医師、CRB/事務局、ARO教員の3者の情報を集約して進捗を管理する。
- ✓ 医師の時間削減が述べ約1000時間に達したことから、合計2名の体制に増員して業務にあたっている。

リサーチクラーク配置のメリットとデメリット

リサーチクラーク配置による研究への効果は極めて高い

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">➢ 医師、ARO、CRB事務局の全員の業務効率化が図れる➢ 医師(PI)側も「病院が研究に携わる医師のタスクシェアに積極的である」ことを肌で実感してくれるため、モチベーションが高まる➢ (将来的に)不適合対応が減ることが期待され、病院としての研究の質向上の意識が高まる	<ul style="list-style-type: none">➢ なし➢ 医師(PI)がリサーチクラークに「本来PIが行うべき仕事を丸投げする」ことを防ぐ必要がある(タスクシフトではなく、「タスクシェア」である。責任の明確化と「業務定義」が必須となる)➢ 研究数の増加により、担当する業務量が増える傾向あり(減らすことが難しい)➢ 適任人材の採用が難しい

医師の働き方改革と研究へのモチベーション向上において
リサーチクラークの配置は有効な手段の1つ



UNIVERSITY OF THE
RYUKYUS
HOSPITAL

働き方改革に対応する臨床研究支援活動の工夫に関する好事例

琉球大学病院

働き方改革に対応する臨床研究支援

● 琉球大学の取組み

- ✓ 診療情報管理センターとの連携体制強化により研究者の負担になっている臨床研究の準備段階を支援
 - ー汎用性のあるレジストリとして必要なデータの特定、収集変数の統一、収集時期・頻度を検討
 - ー電子カルテ内にREDCapを実装(カルテ内と外の2つ)し Hands-onを開催
 - ー個人依存のエクセルから医局共有化へセキュリティと活用しやすさを確保
 - ー研究構想段階で、電子カルテからの簡便なデータ抽出を支援
- ✓ DCTを推進
 - ーCOVID-19の試験でDCTを実施
 - ーDCTを目的化せず患者・医師負担やフィジビリティを考慮
- ✓ PPIを推進
 - ー登録の円滑化と途中離脱の低減が期待
 - ー社会受容性向上のため新聞連載を実施
 - ー県内連携で臨床試験イベントを開催
 - ー臨床試験に特化した患者ボランティア会組織
- ✓ 伴走型専門職の育成
 - ーCRC、DM、PMなどの専門職ではなく、伴走者としてトータルで支援できる人材
 - ーオペレーションの実務だけではなく、科学としての臨床試験を理解した支援者の育成
 - ー各医局の 人材も育成し、AROがフォロー
 - ー医局・県内の他機関の支援者も育成中

教育研修や相談対応を実施

疑問・質問・相談はありませんか？

毎月第2 火曜日 臨床研究の日

臨床研究教育管理センター

臨床研究に関わっている方・興味のあるすべての方
学生さんも大歓迎、お気軽にお立ち寄りください!!
※予約不要

研究を始めたいけど...

何から始めたら...

倫理審査の申請って...

まずは相談を!!

日程 4/9・5/14・6/11
7/9・8/13・9/10

時間 コアタイム 12:00～13:00
フォローアップタイム 11:30～14:00
個別相談はフォローアップタイムもご利用ください
お弁当持参OK・途中入退場や一部参加も自由

場所 臨床研究棟1F 大学院セミナー室

内容

- ・講師による講演、動画視聴
- ・臨床研究に関する質問・相談
- ・REDCap紹介、構築フォローアップ

運営・事務局：臨床研究教育管理センター
お問い合わせ：clinicalresearch@ryukyuu@gmail.com
TEL 098-895-1509 内線1509



働き方改革に対応する臨床研究支援活動の工夫に関する好事例

京都大学医学部附属病院

AI駆動式多施設共同臨床研究事務局整備の取り組み

● 京都大学の取り組み

✓多施設共同臨床研究事務局においては、多くの施設にメールによる連絡・調整を行う必要があるなど、煩雑な事務業務が発生している。これに対して、生成系AIを活用しながら、以下の業務の効率化を推進。

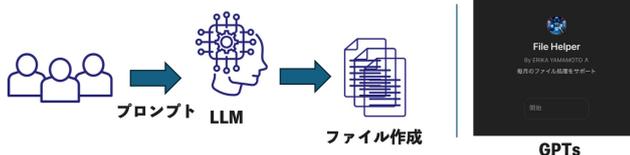
- ①メール業務の自動化。
- ②メール自動返信システムの構築。
- ③秘書業務のチャットボットの構築。
- ④参加施設からの問い合わせへの対応を、FAQチャットボットで行うシステムを構築。
- ⑤登録症例の定期的なフォローアップのリマインド作業を効率化。
- ⑥モニタリングにおいて、施設ごとの登録奨励の拾い上げや報告書作成の効率化を推進。

生成系AI活用による効率化の例

⑤Follow up リマインドチェック

年1回のフォローのウィンドウに入ってきた症例をピックアップして、それぞれの担当の先生にメールでリマインドする

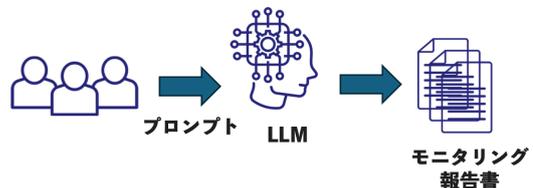
- <実際やること>
- 1.EDCからCSVファイルをダウンロード
 - 2.登録日から1年後の日付を決定
 - 3.その日の前後1ヶ月をFU windowとする
 - 4.来月(今は11月なので12月)FU windowに入る症例および既にFU windowに入っている症例を探す
 - 5.その中でまだFUデータが入力されていない症例をピックアップ
 - 6.施設毎にエクセルファイルにして出力



⑥モニタリング

<実際やること>

1. モニタリング実施日の時点の状況を確認(CSVファイル)
- ② 施設毎の登録症例をピックアップ
3. <モニタリング業務>入力に問題ないかなどを確認
- ④ 4. モニタリング報告書を作成





SHINSHU
UNIVERSITY

人材雇用、人事評価とキャリアアップに関する好事例

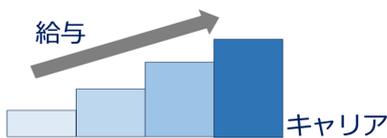
信州大学医学部附属病院

① 個人のスキルと経験に基づく段階別の昇給制度や給与体系の整備

● 信州大学の取組み

- ✓ 非常勤の研究支援スタッフについて、技術補佐員から研究支援推進員へ転換した。
- ✓ 4段階のレベルを設定し、学会認定資格や役職の取得、個人のスキル等を目安にし、昇給を判断する。
- ✓ レベルアップは随時行い、グループや部門内の推薦に基づき、臨床研究支援センターの幹部会議、センター長の決裁を経て決定。
- ✓ 大学内の既存の職種を利用することにより、短期間で独自の昇給制度を構築することに成功。
- ✓ スタッフのモチベーションアップにも貢献。

研究支援推進員の概要



研究支援推進員とは？

- ・ 信州大学で定められている非常勤職員における職種/職名
- ・ 10年特例対象職である（有期雇用）
- ・ 職務内容：研究プロジェクト等における研究補助業務
- ・ 通常/上級/統括的業務と段階的に給与が定められている*

研究支援推進員

